

INFORMATION



こんな楽しい素敵なミルクホールの為のオリジナルの絵が出来上がりました。ミルクホールとの交友も十年になる鎌倉在住の絵描きさんであり作家でもある『ささめや ゆき』さんが本当にお忙しい中、ミルクホールのために描いて下さった絵です。私たちは、昔からささめやさんの絵が好きで、Bar Roomに掛っている踊る女達の版画は、数年前 鎌倉で開かれたささめやさんの個展へ出掛けた際買い求めたものです。

その頃からいつかはミルクホールのために絵を描いてもらいたいと思っていたのですが、遂に実現させようと言うことになり

こちらからお願ひして描いて頂いたのですが、できた絵を見た時は、素敵な大きなプレゼントを頂いたような気がしました。

このほかにももっと色々な絵がありますからどうやって使っていこうかと楽しみです。この号の裏表紙になっている大きな絵は、ミルクホールを物語風に描いて下さった絵で、フランスのカフェのお話からイメージしたと言うことです。

看板にもお目見えする予定です。また、ささめやさんの絵本がミルクホールで売っています。心温まる素敵な本ですのでどうぞ、手にとってご覧になってみて下さい。



中島月通信

猫

ミルクホールには、主と言うべき猫が居る。何せ、今この文を書いている私よりずっと昔からここに居るのである。この猫は・・・私がここへくるずっと前の話だからはっきりしたことはわからないけれど、もう15年はここに居る。といてここに来たときに赤ん坊だったと言うわけではなく、もうもう結構な一人前の猫だったようだ。それ以来、堀の上やら屋根の上から、このミルクホールに出入りする人々に、ニャンとか、ミイとか声を掛けてなんとなく暮らしてきた。それでかれこれ15年である。15年！果たして猫の寿命はいったい何年まで許されるのか？先夜実は一回死にかけたのだ。いつも適当にあしらって来たものさすがに来る時が来たかと思ひ、水を飲ませたりべたついた毛並みを拭いてやったり（昔、ばあちゃんが猫は死ぬ前に体がべたつくと言っていた）冥土の土産にと手厚く看病してやったら数時間後（たった数時間で！）にはおもむるに起き上がり、目の前に置かれたいつにないご馳走であるイワシの缶詰に顔を突っ込みきれいに脂ぎったおつゆまでなめてしまった。その後の回復ぶりは目覚しくただでさえ若作りな猫なのが、いっそう毛並みもツツツツとしてあの時のイワシの缶詰を要求して大声で



てくる。ちっとも死に掛けてなどいなかった。いはずが人間に可愛がられてきた。命であるお米を狙うネズミを退治してくれる・・・からばかりでもないだろう。招き猫はどの地方でも伝統的な工芸として昔から作られ伝えられてきた。伊万里の猫はエキゾチックな顔立ちと絵付け、九谷の猫は金びか、瀬戸の猫は庶民的な感じである。今現在も作られてはいるが、職人も減って骨董市などで見かける招き猫（結構、骨董品として売ってたりする）もめっきり減り値段も高くなってきた。招き猫は、本来二匹一組で、確か右手を挙げているのはお金を招き、左手を挙げているのは人を呼ぶそうである。うちの猫は、どうやら左手は挙げてくれているようだが、右手の方はさっぱりである。伊万里の招き猫 5000円～ 瀬戸の猫 3900円より～ 時々 入荷します

COLUMN

ミルクホール落書帳より

NO.1

武田鉄矢が突然出てきて、「あけまして おめでとう」そんな正月は、楽しいかもしれない。しかし、私にとって今度の正月はただの正月ではないのだ。ただの正月で終わらせてはいけない。今年になって私に彼女ができた。その彼女のたん生日が、1月1日なのだ。どうやって彼女を喜ばしてあげよう。今から ワクワクと考えにふけっている。クリスマスもある。今から二ヶ月は、その事で頭がいっぱいである。そして、今、目の前に彼女がいる。彼女に見えないようにこのノートを書いている。ニコニコである。 // by C

1997年 11月 5日

NO.2

昨日、みんなでおでん鍋をした。その時「パッハを聞いてできた酒」を飲んだ。友人いわく「これがおいしいワインなんだ。」と言っていた。みんなこれはワインだと間違いなく思っていた。買った人々は、ワイン売り場においてあったと言った。が、なんと、ラベルには『清酒』と、書いてあった。しかも『宮城醸造所』と記されていた。あー勘違い。これは、れっきとした日本酒でした。みんな「パッハ」と言う言葉にだまされたのだ。しかし、酒屋でも両どなりにワインがならんでいたというから、きっと酒屋も知らなかったにちがいない。日本酒と知ったとたんみんな飲まなくなってしまった。かわいそうなパッハだったが、大笑いの大うけだった。おかげで宴は盛り上がりました。 S & O

1997年 11月 6日